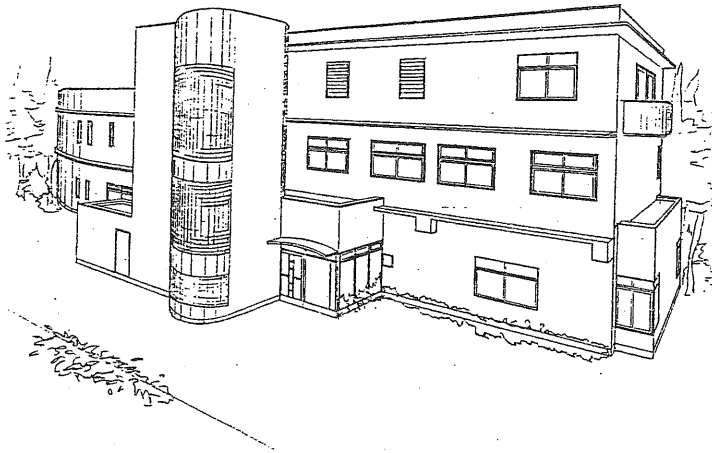


向島の催し、ニュースは、愛隣館研修センターへお知らせ下さい。

愛隣館研修センター ニュース

社会福祉法人イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL 075-621-3849
FAX 075-621-1579
発行 平田 義
編集 恵 大一郎

3階増設工事が始まります



2・3階部分増設完成予想図

工事期間中はご迷惑を

おかけいたします

愛隣館サービスセンター 所長

平田 義

秋の深まりとともに、暑い夏の疲れが始める今日この頃であります。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年、一月十七日に未曾有の大被害をもたらした、阪神・淡路大震災に始まり、一連のオウム真理教事件、向島にまで押し寄せてきた銃犯罪の激増など、私たちを不安に陥れるような暗いニュースが続いています。

一昨年に増改築いたしましたエレベーターと厨房に引き続いて、この度、3階を増築する運びとなりました。これは、今現在おこなっています京都市の委託事業であります。身体障害者サービス事業の一環として、入浴サービスを実施するためのものであります。

かねてより、家のお風呂では狭くて入れなかつたり、入浴者が確保できなくて、入浴

次頁へつづく

は月に数回しかできなかつたような「障害」者の方々が熱望されていました入浴設備が増築されることになりました。今の計画では、入浴設備は全部で三つ。寝たきりの状態でも入浴できる特殊浴室。車イスを乗り換えて、座ったまま入浴する中間浴室。そして、介護者なしで入浴できる方のための普通浴室の三つです。それぞれの体の状況に合わせて入浴ができるようになりまします。詳しい実施要綱につきまします。是非とも、多くの方々に利用していただければと願っております。

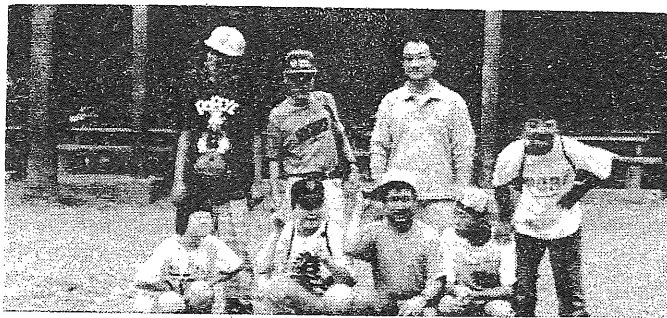
この向島の地で、「障害」者や高齢者の方々がより安心して豊かな暮らしができるためのセンターとして、今後とも働きをすすめていきたいと考えております。皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

なお、3階増築の総工費は約九千四百万円。その内、約半額を国と京都市からの補助を受け、残りを医療事業団の借入と皆さまからの募金とで賄っていく予定であります。

増築工事が始まれば、近隣の皆さまには騒音や工事関係車両の通行などでご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、何卒建築の主旨をご理解頂き、ご協力を賜りますよう重ねてお願いいたします。

楽しかったよ！夏のキャンプ！

※教会学校 初級、上級・中学
 ※「障害」児学童



去る八月四日(金)、五日(土)、京都市左京区の大黒谷キャンプ場にて、今年の教会学校上級・中学科(上級は小学生三年生以上)のキャンプを世光教会の教会学校のお友達と合同で行いました。

いつもは二泊三日で、テーラムを考え、それに沿ったプログラムを設定するのですが、教会学校の教師の方も高年齢化が進み、学生が少なくなり

勤労者が中心になってしまっている現状もあり、みんながまとまって休みがとれず、初めて一泊二日のキャンプとなりました。

今年は、「みんなが主役」というスローガンの下、子どもたちが好きなグループを結成し、事前にキャンプ場についての情報を聞き、その中で自分たちのしたいことをそれぞれ考え合い、それぞれのベイスで実行する。という方式を採用しました。なにをしたかと言いつつ、川遊びや食事作り等に落ち着いたようでした。

いつもより時間が短く、あつ、という間に終わってしまったキャンプでしたが、子どもたちの表情は生き生きと輝き、日頃なかなか経験できない「大自然」の中の生活を満喫していたように思います。

またそれに先立ち、初級(土曜学校)の方は、小学一、二年生が参加し、同じく左京区の百井キャンプ場にて、七月二十八日(木)、二十九日(金)の二泊二日で行いました。



こちらの方も元氣一杯で、「そんなに川が好きかなあ」というくらい川で遊びまくっていた子どもたちです。また、ロープを使つての崖登りにも挑戦。最初は恐がついた子どもたちも時間と共に大胆に終わる頃には泥だらけでした。

また、当センターに通う「障害」児学童(通称ガクド)でも、近隣の「障害」者作業所「ベテスダの家」の人々と共に、毎夏恒例の滋賀県は安曇川町「京都新聞ふれあいハウス」の方へ八月二三日(木)二五日(土)の二泊三日でキャンプに行つて参りました。

ここでは、もう「当分水見のイヤヤ」というくらい泳いで泳いで泳ぎたおくらいた。一瞬、「ひよつとしたら琵琶湖に住めるんちゃうかなあ」と錯覚しようになったほどです。そしてやはり、去年と比べると皆、泳ぎが大胆になってるのを見て、「成長してるなあ」と思われましました。又、夜は夜でキャンプファイヤーや花火大会で盛り上がり上がったのでした。

デイサービス・定例「学習会」

『若者・女性とHIV/AIDSプロジェクト』コーディネーター ～ 榎本てる子さん ～ を迎えて

去る七月一八日(火)、榎本てる子さんを講師に迎えて、HIV・AIDSについての学習会を行いました。榎本さんは、カナダでHIV・AIDSの患者さんを対象にしたホスピスで研修され、帰国されてからは、京都YWCAで若者や女性を対象に啓発やカウンセリングを行っている『若者・女性とHIV/AIDSプロジェクト』のコーディネーターをされ、また、

同志社大学では、非常勤講師としてHIV・AIDSやセクシヤリティーについての授業をされています。

海外の情報にも広く精通され、性行為感染者の方や輸血血液製剤で感染した血友病患者の方とも広くネットワークをお持ちです。お忙しい中、時間を割いて当センターまでお越しいただき、また、榎本さんは、性格的にも体格的にもパワフルな方なので、HIV・AIDSの難しい話を、面白く、わかりやすく話を、面白く、わかりやすく話過ぎていきました。

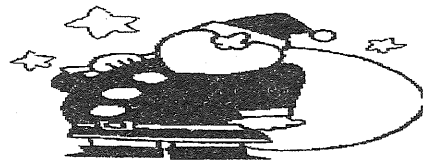
お話の内容は、まずHIVとAIDSの違いについて、HIV感染とは、ヒト免疫不全ウイルスに感染し特別症状が出ていない状態のことをい、AIDSとは後天性免疫不全症候群のことで免疫細胞が低下することによって、日和見感染症を起こすことを「AIDS発症」というのです。

感染経路としては、血液、精液、膈分泌液、母乳の四つの体液があげられ、その体液を通してウイルスが体内に入ります。要するにこれらはいれば、日常の生活での感染はない、ということ。感染してから発症するまでには、数ヶ月から十年以上の潜伏期間があり、その間は、それ以前と何ら変わらない生活が出来ると、もちろん仕事も出来るのです。

患者さんの思いとしては、「一般の人々は、感染させら

※ イベントのご案内 ※

～ クリスマス コンサート ～



とき：12月3日(日) AM 10:00～

ところ：愛隣館 野の百合幼児園ホール

ピアノ、エレクトーン、バイオリンを稽古している、幼児、小、中学生のみなさん。演奏を聞かせてください。

参加ご希望の方、又詳細をお知りになりたい方は音楽センター (622-8546) までお問い合わせください。尚、出演希望の締めきりは11月19日(日)です

れる」と思いがちですが、実はその逆で、私たちは免疫細胞が低下しているのです。ちょっとした風邪でも、命取りになりかねない「のだそうです。本来病気で病んでいる人達に對して、社会が暖かく受け入れるべきであるのに、実際はその逆で、一番頼りにすべき病院からも診察拒否され、又社会生活においても、根拠のない偏見や差別が根強いのが現実です。

参加者の一人Aさんは、「HIV・AIDSについては、色々知らなかつた事が多かつたので、大変勉強になりました。HIVは、名前を聞いただけでも恐いと思つてました。日常の生活では心配ないということがよくわかりました。それと、感染者に對する思いやりとか、接し方も理解できたし、状況が大変なことでも良くわかりました。」と言つておられました。

太陽が調へた！ 向島の歴史

中書島

ところで中書島は、京阪電鉄の本線と、宇治線との分岐点として、京都市南部のターミナルの役割を果たしています。柳町が正式な地名のようですが、実は中書島は俗称で、文禄年間、脇坂中務大輔が芦荻の生い茂る河川を開いて屋敷を構えたのがこの界限の始まりで、中務を中国風に中書と記したことから、脇坂侯を敬称して「中書さん」と呼んだのが、中書島の地名の起りだと伝えられています。

伏見城の廃城後は、この辺りも一時廃れましたが、前述した伏見奉行の建部内匠頭がこの地に廓を設け、それ以後、遊廓として賑わったと伝えられています。それらの廓は主に、宇治川を往来する旅人や船頭を相手として、一九五八年、売春防止法が施行された頃には、お茶屋が六八軒、そこで働いていた女性は二〇〇人近くに達したと伝えられています。そうしたお茶屋も今ではすっかり姿を消して、駅に通じる通りの両側には、飲食店やスナックなどが建ち並び、明るい駅前通りになっています。しかし、一步裏通りに足を踏み入れると、歴史の歯車が逆回りしたように感じられるのは、その薄暗い通りと、瞬間ネオンが、表通りの明るさとは対照的に、奇妙に暗く、意味ありげだからなのでしょう。

時代は変わっても……

連載 第15回

柏木 正行

一般の社会では、廓、赤線等の言葉は、日常の会話から消え失せようとしています。確かに一つの言葉は、その時代の産物であり、時代が必要としなくなった言葉は死後として捨てられるでしょう。しかし、廓、赤線等の言葉は消滅しても、買春、ソープランド、セクハラ等の言葉が氾濫している今の時代なのです。そして、使われる言葉は違つていても、本質的な部分、つまり、男に服従させられる女と、金の力で一時の快楽を求めようとする男。そうした関係は、昔も今もあまり変わっていないのではないかと私は思うのです。

牧歌的光景の裏には……

私がこんなことを考えている内に、早くも晩秋の陽は西に傾き、建ち並ぶ酒蔵が運河に黒い影を落とし、私に帰路を急がせるのでした。そうした夕陽に押されるように、ふたたび観月橋を渡って、向島の我が家へと急ぎます。その橋の下には、夏の間、夜毎に観光客を楽しませた何隻かの屋形船が係留されています。それは、一見平和なたずまいで、私自身うっかりすると、そうした牧歌的な光景に溶け込んでしまいがちです。しかし、向島に住む人々の日々は必ずしも平和とは云えないのです。

次号につづく……

◇デイサービス・秋の小旅行
 ◇十一月二八日の、二九日の、兵庫県城崎温泉へ。力二食べづくしの豪華旅行？になることを期待しています。
 (参加対象はデイサービス利用者のみとさせていただきます)

お知らせ

例年、この時期に「につくり・フェスティバル」を開催しておりましたが、一面にも書かせて頂きましたこと、十月月中旬から、三階増設工事が始まり、今年には開催を見合わせることとなりました。いつもご協力頂いていた皆様には、誠に申し訳ございませんが、増設の趣旨をご理解頂き、何卒ご容赦頂きますようお願い申し上げます。

編集後記

今年も昨年に引き続き二年連続の猛暑とか。地球全体の環境が異常になりつつあるのではありませんか。さて、いよいよ念願の三階増設工事が始まります。工事期間中は、騒音や立入り制限等で、皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、増設の趣旨をご理解頂き、ご容赦頂きますようお願い申し上げます。

